

高萩市内の多様な移動需要に対応したAIオンデマンド交通運行事業

応募様式A

MyRideのるる共創プラットフォーム

事業の基礎情報

実施主体	茨城交通株式会社
事業実施地域	茨城県高萩市
共創の類型	官民共創 ・ 他分野共創
他分野共創の類型	医療・介護・福祉 ・ こども・子育て ・ 教育・スポーツ・文化 ・ 商業
共創パートナー	茨城交通、高萩市（企画財政課・健康づくり課・生涯現役推進課・子育て支援課・教育総務課）、高萩清松高等学校、高萩高等学校、イオン高萩店、県北医療センター高萩協同病院、みちのりホールディングス、ケー・シー・エス
運行形態	AIオンデマンド交通（道路運送法第4条）
運行主体	茨城交通株式会社

現状・課題

（地域交通の現状・課題に関する分析）

- 「MyRideのるる」は、令和3年7月より日中時間帯の定時定路線バスをAIオンデマンド交通に置き換える実証運行を開始、令和4年10月より本格運行に移行した。MyRideのるるの利用者数は、従前の定時定路線バスの利用者数よりも増加した後、横ばい傾向（95人/日）が続いていたが、令和6年度に入ってから前年同月比で約15%減の減少傾向に転じた。
- 利用者数減少の原因は、利用者のニーズに対応できていないこと（運行時間帯が合わず片道のみ利用（利用者の39%が該当）、朝や夕方の運行を求める意見など）や、公共交通利用に対する意識の低さ（自家用車中心の生活）、社会情勢の変化（人口動態、生活様式の変化）である。

地域公共交通計画への位置づけ
（位置づけ予定を含む）

有

運輸局・運輸支局への事前相談

6/4 関東運輸局
6/6 本省地域交通課
6/11 茨城運輸支局

令和5年度共創モデル実証プロジェクトの補助有無

無

高萩市内の多様な移動需要に対応したAIオンデマンド交通運行事業

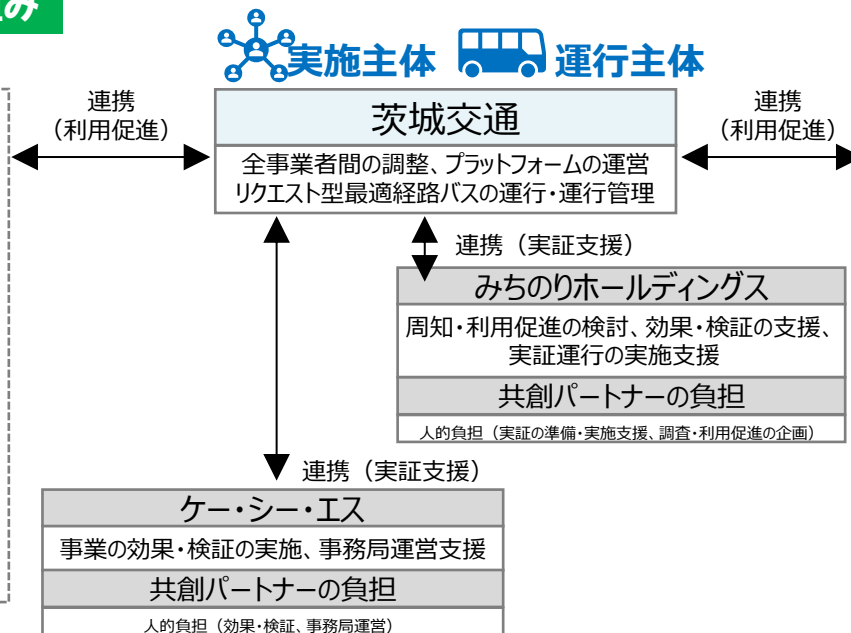
応募様式A

MyRideのるる共創プラットフォーム

事業の全体像・共創の仕組み

他分野共創

高萩清松高等学校
高校生に対する周知活動や利用促進の実施
高萩高等学校
高校生に対する周知活動や利用促進の実施
イオン高萩店
買物利用者や従業員に対する 周知活動や利用促進の実施
高萩協同病院
病院利用者や従業員に対する 周知活動や利用促進の実施
共創パートナーの負担
人的負担（周知・利用促進実施）



官民共創

高萩市企画財政課
庁内担当部局との横断的な調整、事業者との調整
高萩市健康づくり課
母子や病院利用者に対する周知活動や利用促進の実施
高萩市生涯現役推進課
高齢者や公民館利用者に対する周知活動や利用促進の実施
高萩市子育て支援課
保育園・認定こども園の保護者や職員に対する 周知活動の実施
高萩市教育総務課
小中学校・幼稚園の保護者や職員に対する 周知活動や利用促進の実施
共創パートナーの負担
人的負担（周知・利用促進実施）

取組の概要

（事業の概要）

- 新たな実証事業としてAIオンデマンド交通「MyRideのるる」の朝と夕方時間帯の新規運行（7:30～8:30、15:00～19:00）及び高萩清松高校周辺を新規運行エリアに追加（エリア拡大）し、再出発する。既存利用者の利便性向上に加えて、現在利用できない層（マイカー、送迎、自転車等で移動）に対して、新たな移動手段の選択肢を提供する。また、アプリ予約への誘導を図るため、新規運行時間帯はアプリ予約のみ受け付ける。
- 市関係課や高校・商業施設・医療と連携して、多様なターゲットの移動需要に合わせた周知活動・利用促進及び効果測定を実施する。

（地域の関係者との連携・協働）

- 福祉・医療・子育て・教育・商業等の行政及び施設関係者と連携して周知・利用促進を図り、新規運行によるメリットを享受できるあらゆるターゲット層にアプローチすることで、既存利用者の利用回数増（往復）や新たな需要開拓（マイカー・送迎・自転車等からの転換）を目指す。

（地域公共交通ネットワークや既存交通との関係性）

- 既存交通に加えて本事業を実施することにより、既存利用者の利便性は下げずに、新規需要開拓に取り組む。
- ただし、本格運行へ移行する際は、本事業の結果を踏まえ、既存交通の再編（AIオンデマンド交通への集約や定時定路線バスの見直し）を検討する。

高萩市内の多様な移動需要に対応したAIオンデマンド交通運行事業

応募様式A

My Rideのるる共創プラットフォーム

事業実施手順・スケジュール

- 令和6年6～8月：事業内容、実証運行内容の検討
- 令和6年8～9月：周知・利用促進の計画・準備、実証運行の準備
- 令和6年9～令和7年1月：実証運行（運行時間の延長）の実施

- 令和6年9～12月：周知・利用促進の実施
- 令和6年11月頃：利用者アンケートの実施
- 令和7年1～2月：実績報告のとりまとめ

		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実施主体	茨城交通	応募・申請						継続運行検討		報告	
運行主体		検討			準備	実証運行（朝夕の運行・運行エリア追加）				継続運行	
共創 パートナー	高萩清松高等学校、 高萩高等学校			計画準備	周知・利用促進						
	イオン高萩店			計画準備	周知・利用促進						
	高萩協同病院			計画準備	周知・利用促進						
	高萩市企画財政課	庁内担当部局との横断的な調整など						継続運行検討			
	高萩市健康づくり課、生涯現 役推進課、子育て支援課、 教育総務課			計画準備	周知・利用促進						
	みちのりホールディングス	周知・調査計画、実証運行実施支援									
	ケー・シー・エス				準備	アンケート		とりまとめ			

取組の詳細

(地域交通にもたらされると想定される効果)

- MyRideのるるの朝・夕時間帯の新規運行により、時間帯が合わずに片道のみ利用していた既存利用者及びマイカー、送迎、自転車等で移動している層に対して新たな移動手段の選択肢を提供できる。また、高萩清松高校周辺のエリア追加により、路線バス運行時間外の高校生の下校利用に対応できる。
- 実証運行期間中の予約データの取得・分析や利用者アンケートの実施により、更なるサービス改善や本格運行移行への必要データを把握できる。

(地域全体に及ぶと想定される効果)

- 本事業に参画する各主体が連携して周知・利用促進を図ることにより、新規運行によるメリットを享受できるあらゆるターゲット層にアプローチできる。
- 取組にあたっては、各主体の施設利用者及び職員の移動実態や移動ニーズを把握することにより、効果的な取組を実施できる。
- 結果として、高齢者や妊婦等のマイカー利用削減、保護者や家族による送迎削減及び送迎の負担軽減、自転車通学のからの転換などが期待できる。

※特に以下の効果が想定される場合は、その項目に○をつけ（複数選択可）、当該内容について上記に具体的に記載してください。

☐	新たな移動手段の創出や各種送迎への地域住民の混乗などによる、地域住民の利便性向上		貨客混載や各種送迎の公共交通への集約など、交通事業者や地域の関係者の生産性向上
☐	乗降データを取得する等、データを活用して、事業検証ができる環境整備	☐	通院者や商業施設の利用者に関する情報など、他分野の移動需要に関するデータの利活用

(補助事業実施後の予定)

- 本事業の実施により得られた効果・課題等を定量的・定性的に把握した上で、本格運行への移行のために必要な改善事項等について、関係者間で協議を行い、本格運行に向けた具体的な事業方策についての検討・整理を行う。
- 本格運行にあたっては、資金調達方法として、高萩市補助の活用に加えて、国庫補助（地域内フィーダー系統補助）の活用や、茨城県の補助制度の活用なども視野に入れ、国・県との協議・調整を進める。
- さらに、利用者の評価・ニーズ等を踏まえて、目的地となる施設等とのさらなる連携の可能性についても把握・整理を行い、今回参画する事業者の継続的な連携体制の構築に加えて、新たな共創事業者（商業・観光分野や医療分野の事業主体等）との連携可能性を検討する。

資金面	＜継続活用＞ 高萩市補助、国庫補助（地域内フィーダー系統補助） ＜将来的な活用可能性の検討・調整＞ 茨城県の補助制度（運行に対する補助、利用促進に関する補助）
人材面（運転手の確保）	- 茨城交通による運転手確保のための取組を継続実施 - 自治体による交通事業者の運転手確保に対する支援